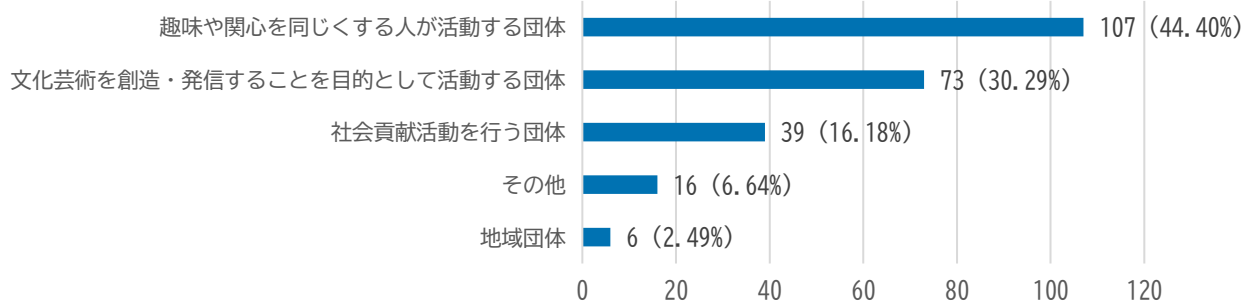


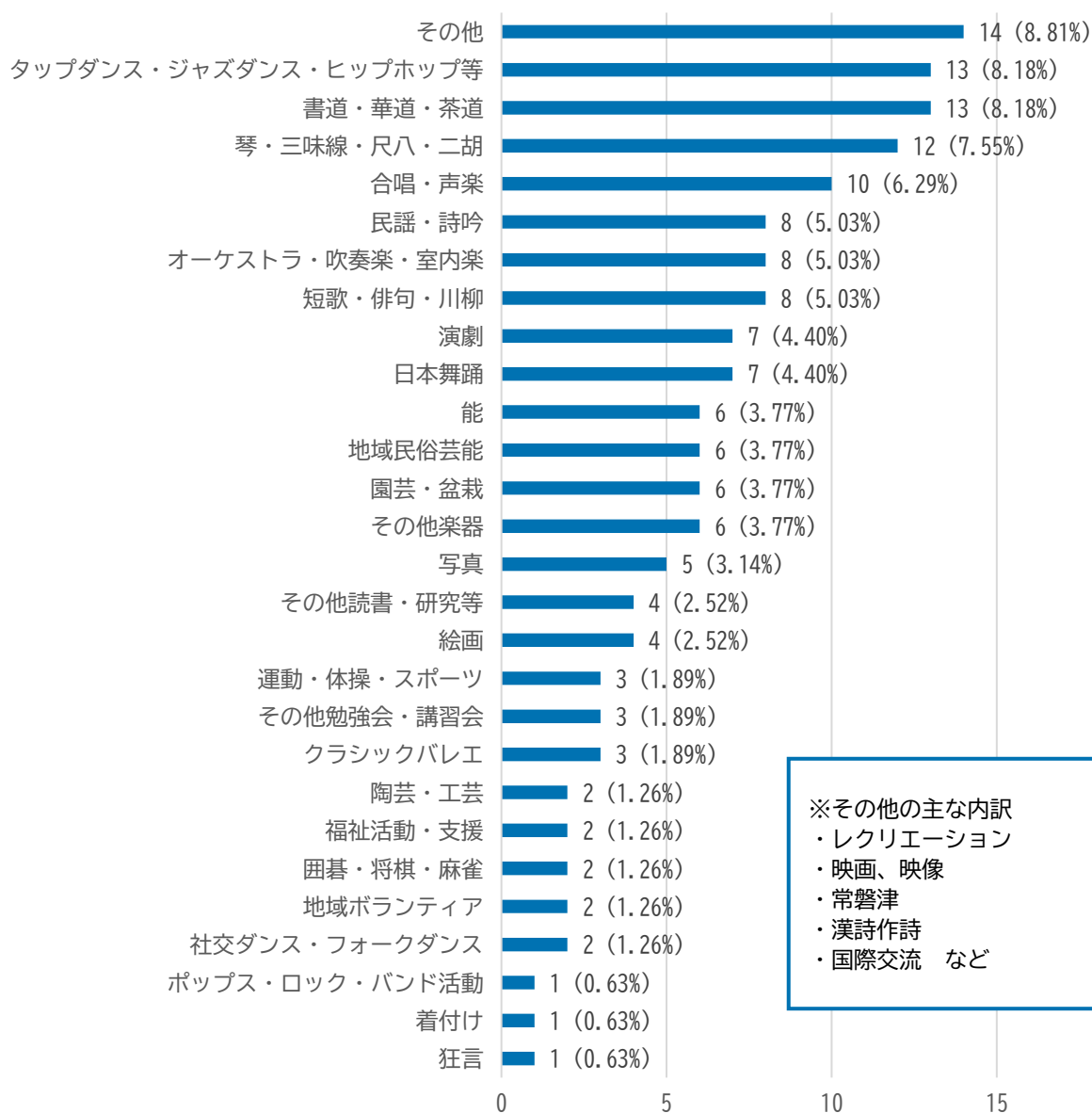
■文化団体アンケート結果速報【260528時点】

(1) 団体の活動について

①団体の組織形態【MA】

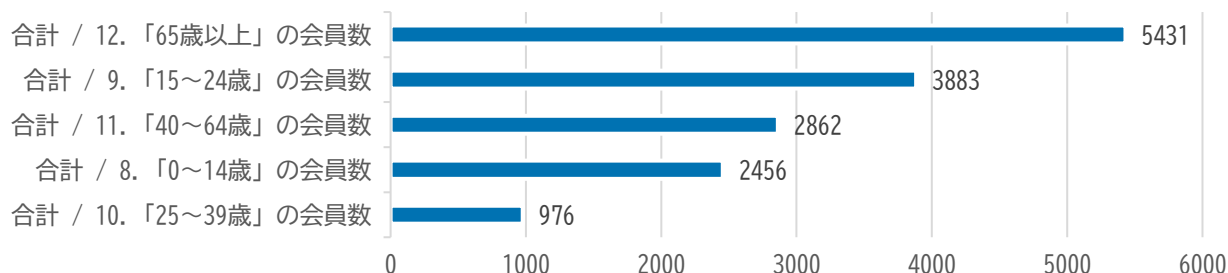


②団体の分野【SA】



※その他の主な内訳
 ・レクリエーション
 ・映画、映像
 ・常磐津
 ・漢詩作詩
 ・国際交流 など

③年齢ごとの会員数（人）

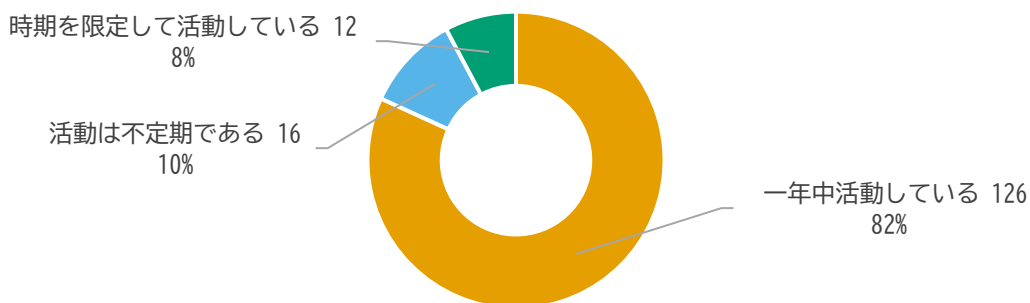


【年齢ごとの会員数】

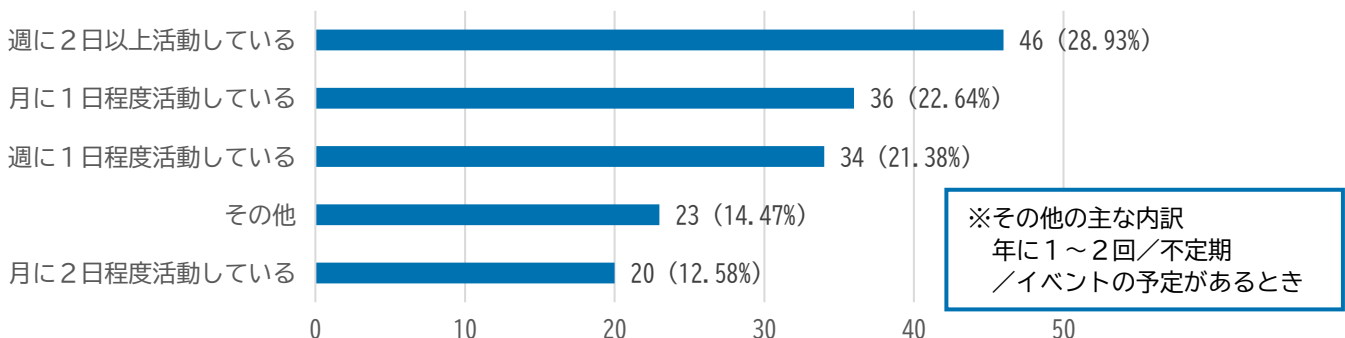
年齢ごとの会員数については「65歳以上」の会員が最も多く、「24歳以下」の若い世代も4割を占めている。一方で、「25～39歳」の会員数は相対的に少なく子育て・就労世代の参加が課題であることが読み取れる。

(2) 練習・稽古・創作・会議などの日常的な利用について

④活動の時期【SA】



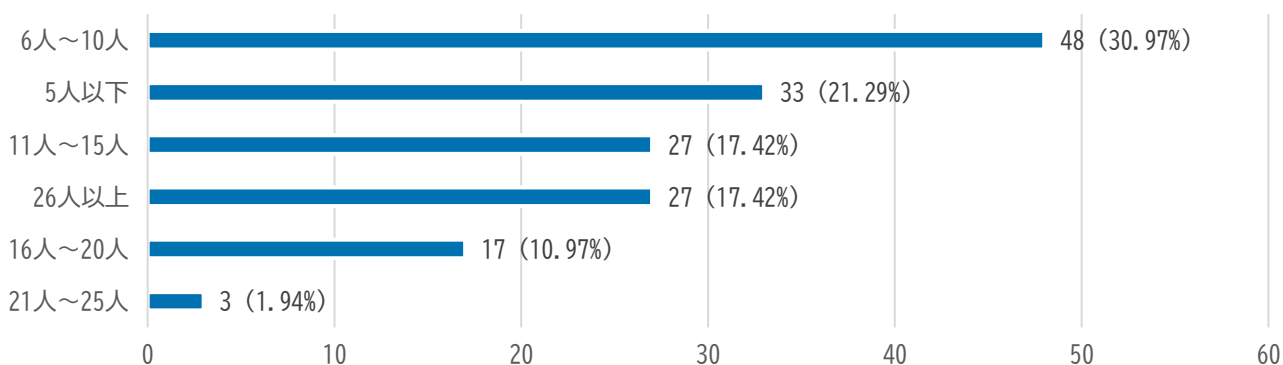
⑤活動の頻度【SA】



【活動の時期・頻度】

「一年中活動している」団体が大多数を占め、定期的・継続的な活動が主流であると読み取れる。一方で、「不定期」、「時期を限定」の活動も一定数存在し、公演・展示期間を中心とした活動や季節・行事に合わせた活動を行う団体の存在がうかがえる。活動頻度では「週2日以上」が最も多く、「週1日以上」と合わせて考えると、日常的に活動している団体が多い。

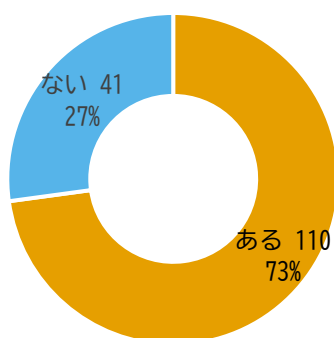
⑥活動への一回当たりの参加人数【SA】



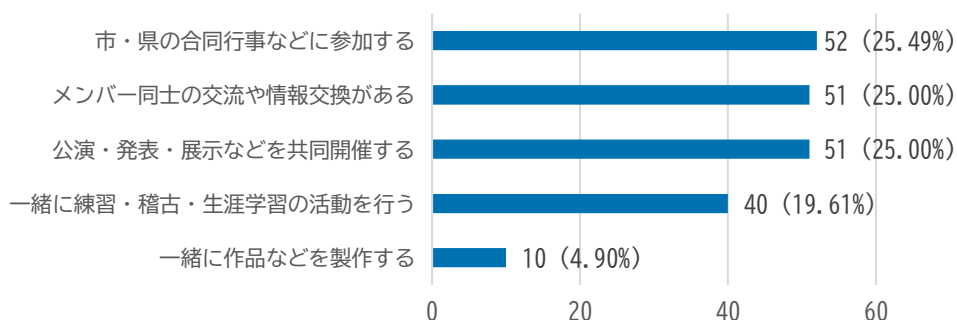
【活動への一回当たりの参加人数】

活動一回あたりの参加人数は「6人~10人」、「5人以下」が多い結果となり、10人以下の少人数での活動が多いことが分かる。

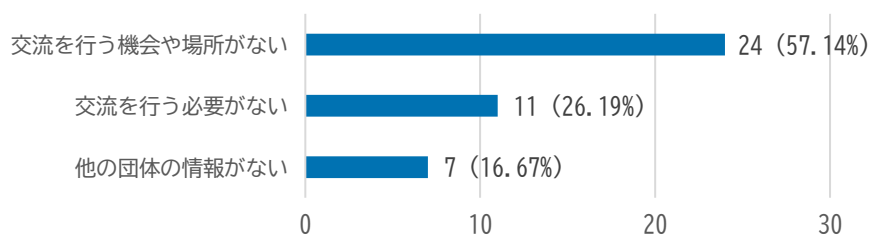
⑦他の団体との交流有無【SA】



⑧「ある」場合の交流内容【MA】



⑨交流が「ない」場合の理由【MA】



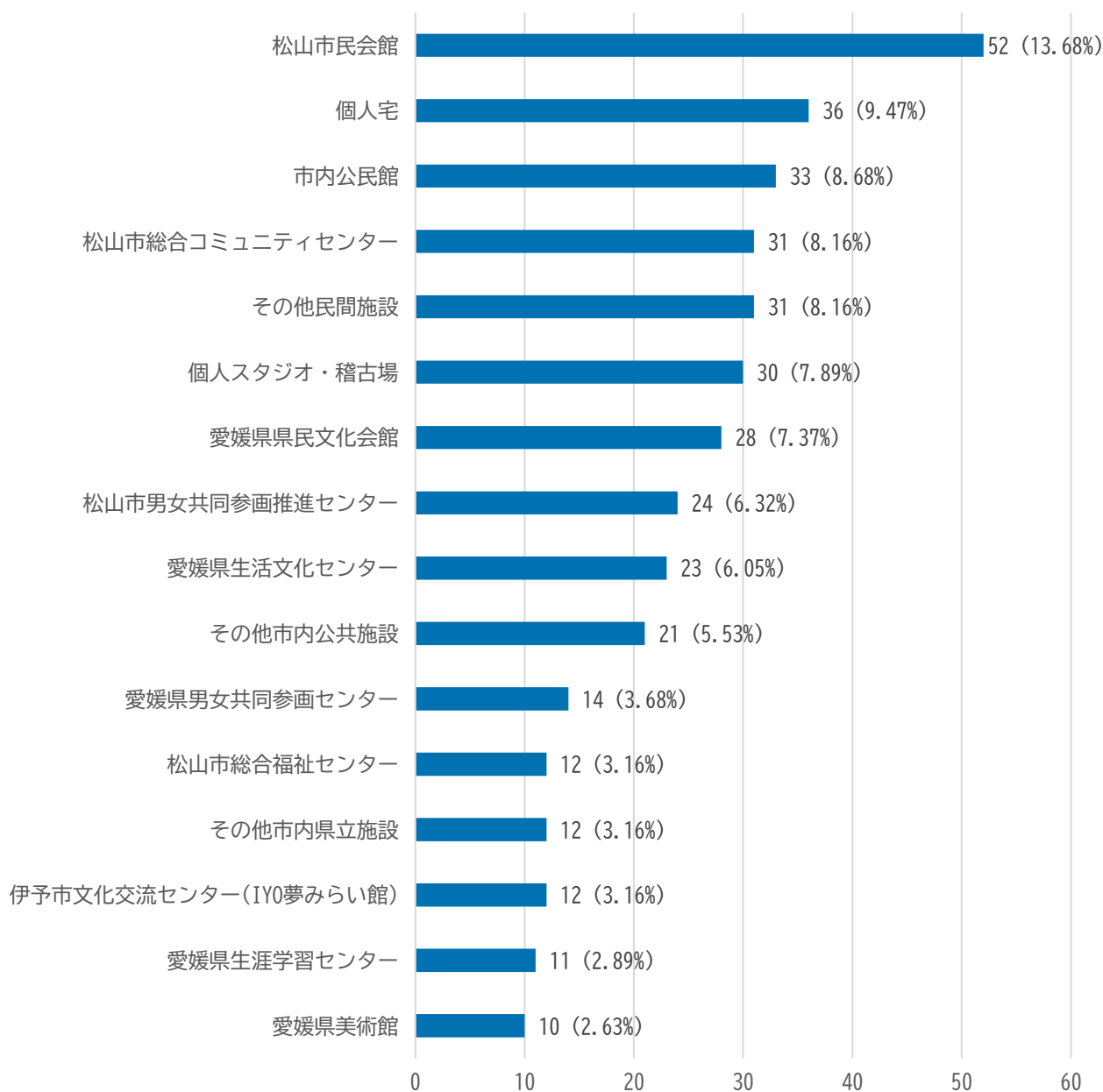
【他団体との交流】

7割以上の団体が「交流がある」と回答しており、交流内容としては、「市・県の合同行事」や「公演・発表・展示」など、イベントの場でのつながりが多い。一方で「メンバー同士の交流や情報交換」「練習・稽古・生涯学習活動」などの日常的なつながりも次いで多くなっている。

「交流がない」理由としては、「機会や場所がない」「情報がない」といった回答が目立ち、交流ニーズはあるが環境が整っていない状況が示唆される。

⑩活動場所で使用している主な場所【MA】

※値10以上の施設のみ抽出



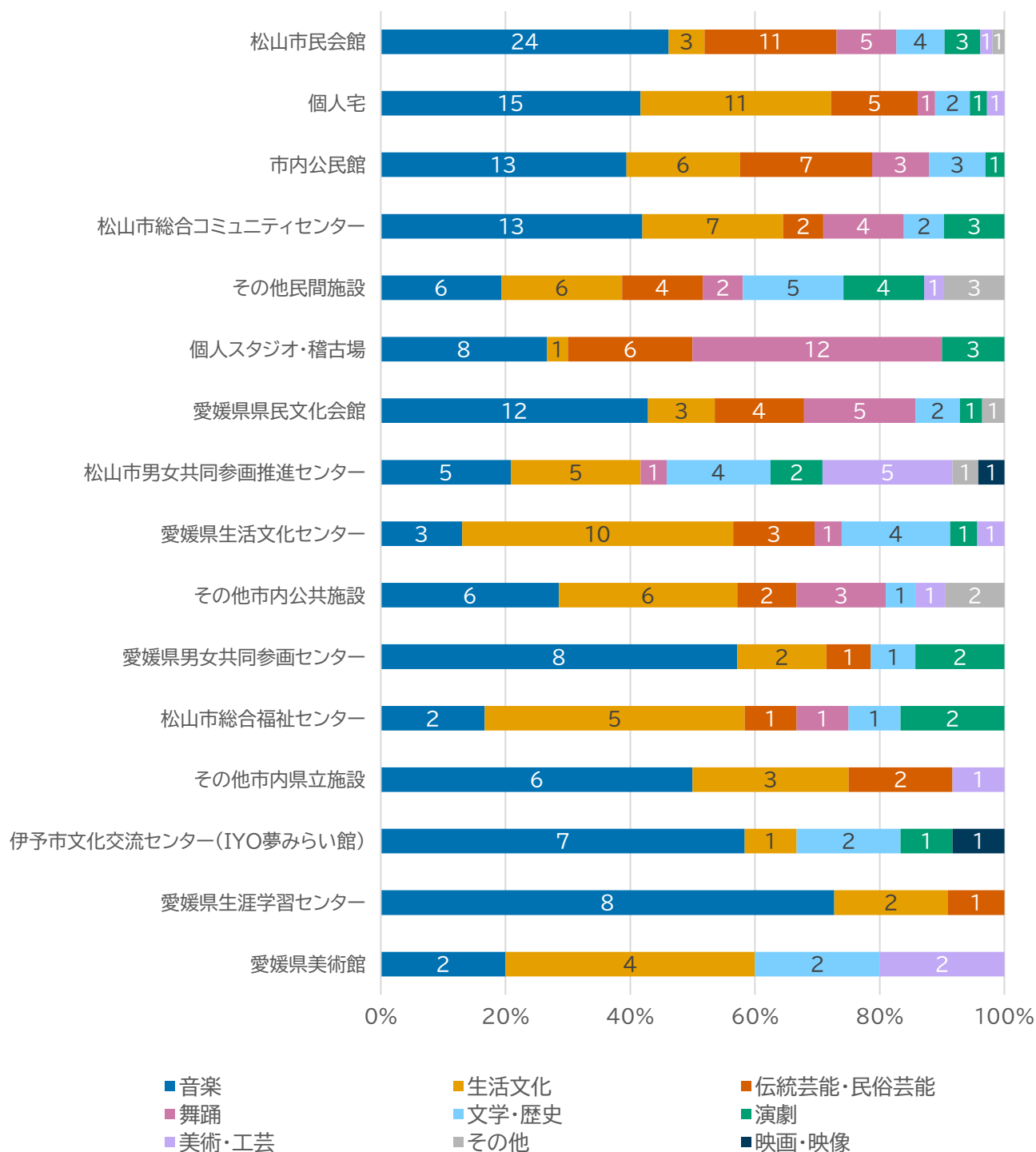
【活動で使用している主な場所】

「松山市民会館」が最も多く、「市内公民館」、「松山市総合コミュニティセンター」を合わせると、市が設置した公共施設利用が多い傾向にある。「個人宅」、「個人スタジオ・稽古場」も次いで多く、各団体が身近な場所で日常的に文化芸術活動を行っているとは推察できる。

1つの施設に集中しすぎず、「その他民間施設」や「愛媛県県民文化会館」も多く利用されている。

⑩' 活動場所で使用している主な場所【MA】<ジャンル内訳>

※値10以上の施設のみ抽出

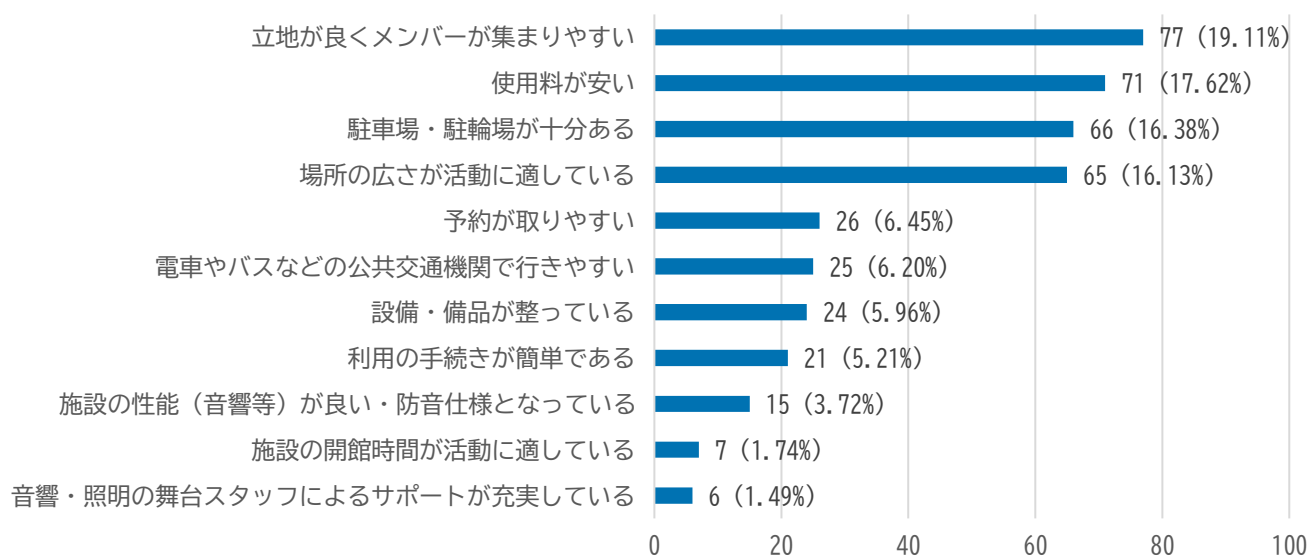


【団体分野×活動で使用している主な場所】

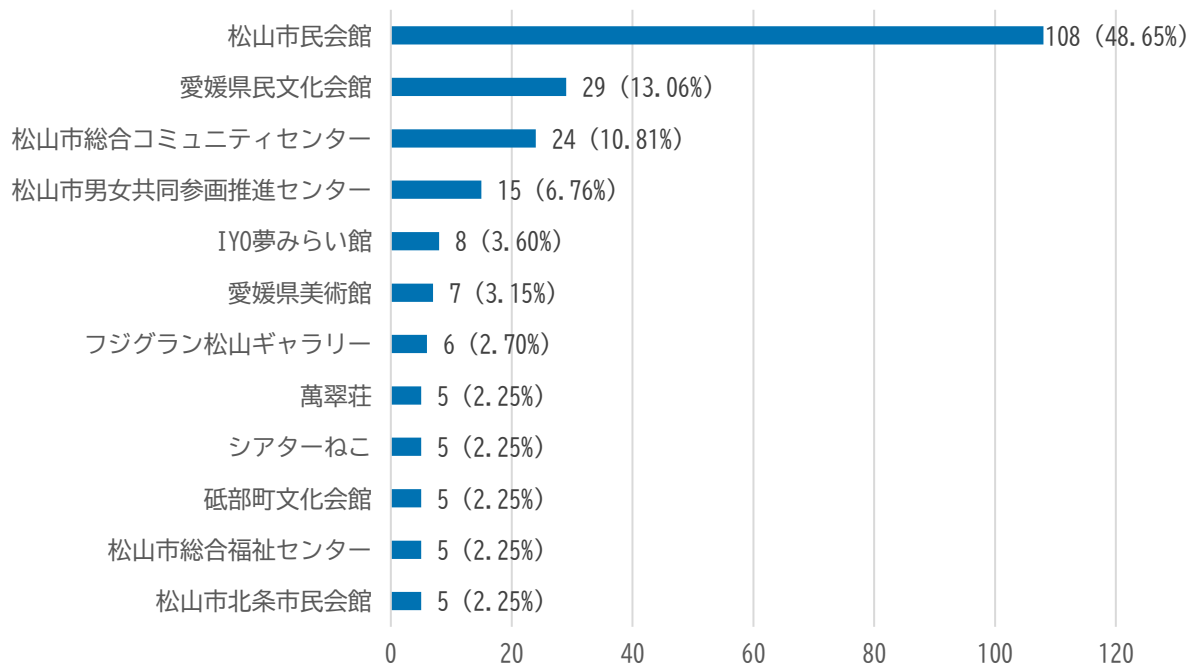
音楽団体の母数が多いこともあり、全体的に音楽利用の割合が多い傾向にあるが、「松山市民会館」では「伝統芸能・民族芸能」の利用が多いことがうかがえる。

一方で、「舞踊」は「個人スタジオ・稽古場」での利用が多いことが読み取れる。「市内公民館」や「松山市総合コミュニティセンター」は各分野に横断的に利用されている。

⑪活動場所について重視していること【MA】



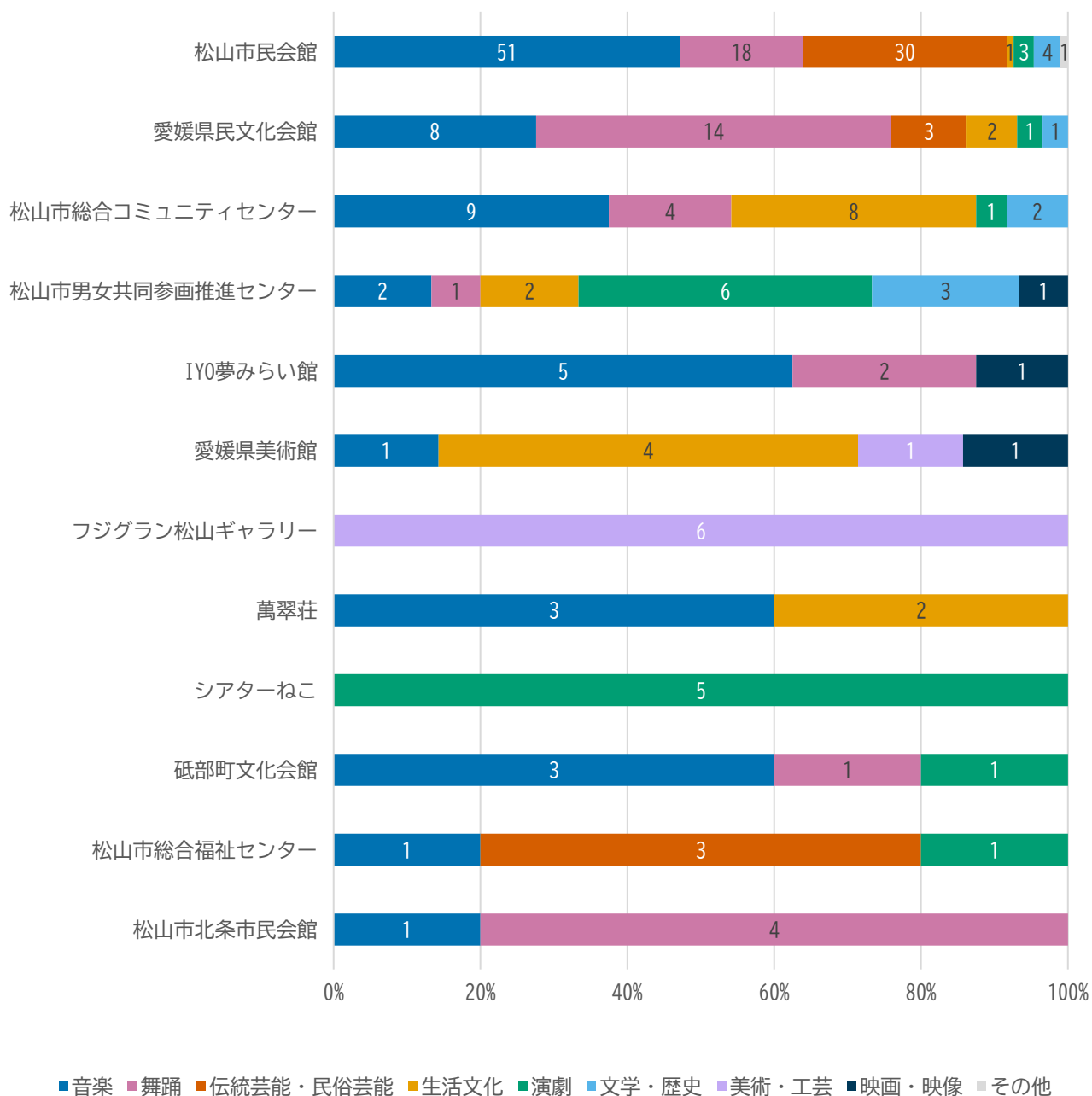
(3) 発表・公演・展示などのイベント利用について

⑫直近3年間、主催または参加した発表・公演等の会場【MA】
※値5以上の施設のみ抽出

【直近3年間に主催又は参加・発表した公演等の会場】

公演等の会場では、「松山市民会館」の利用件数が突出していることから、市内の発表・公演において、中核的拠点として機能していることが読み取れる。「愛媛県民文化会館」、「松山市総合コミュニティセンター」、「松山市男女共同参画推進センター」も一定数の利用があり、規模や内容に応じた会場選択が行われていると考えられ、多様な公演ニーズに対応する施設配置が形成されていると捉えることができる。

⑫' 直近3年間、主催または参加した発表・公演等の会場【MA】 <ジャンル内訳>
 ※値5以上の施設のみ抽出

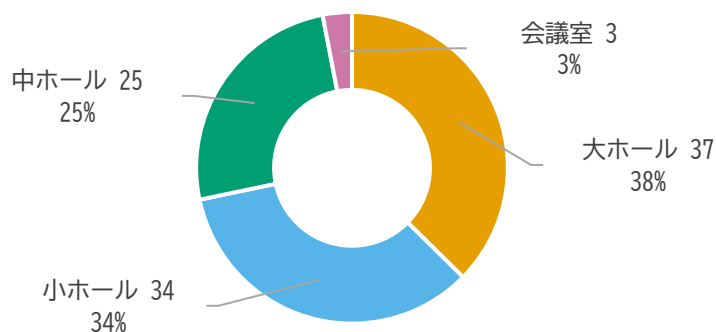


【団体分野×公演等の会場】

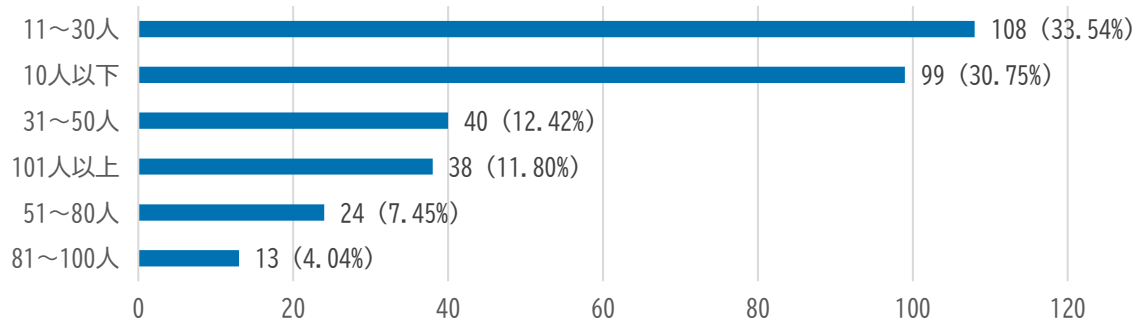
分野の内訳を見ると、「松山市民会館」は「音楽」、「舞踊」、「伝統芸能・民俗芸能」など多様なジャンルで利用が多く、大・中・小ホールを有する施設特性が強みとして表れている。

一方で、「美術・工芸」や「演劇」などの利用は限定的であり、それを補完する形で「フジグラン松山ギャラリー」といった専門施設が機能している。

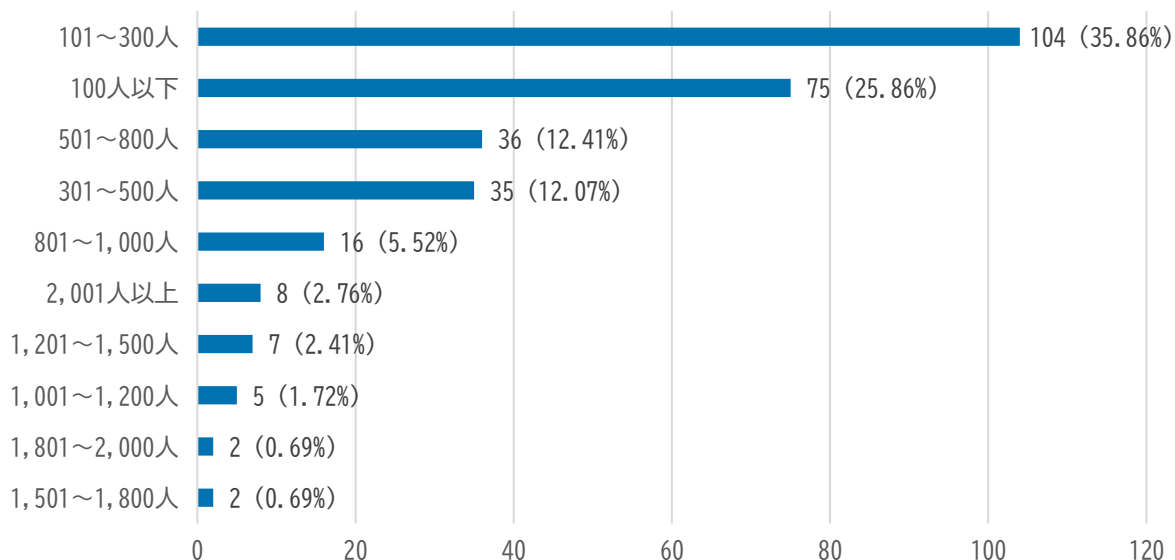
⑬松山市民会館で利用した諸室【MA】



⑭催し物の出演者数・出展者数【SA】



⑮催し物の入場者数【SA】

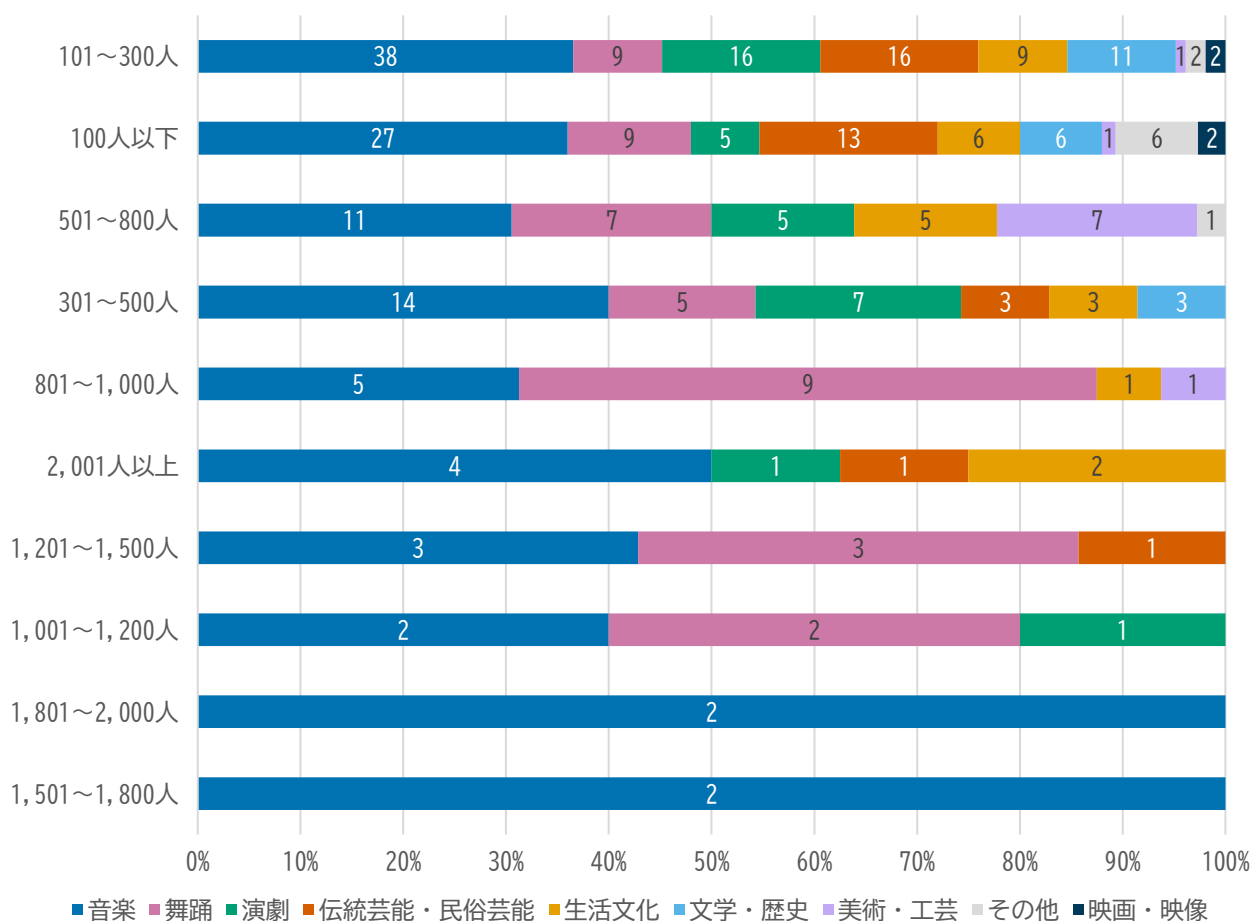


【出演者数・入場者数】

出演者は「11～30人」、「10人」以下が大多数を占めており、小規模～中規模の発表や公演が多いながらも、「101人以上」、「81～100人」も一定数見られることから、大規模な発表・公演まで幅広く実施されていることが分かる。

入場者においては「101～300人」、「100人以下」が中心であり比較的小規模な発表・公演が多いことが読み取れる。一方で「501人以上」も25%超を占めることから小～中規模の出演者数ながら、一定の集客力を持つ発表・公演が行われていると推測できる。

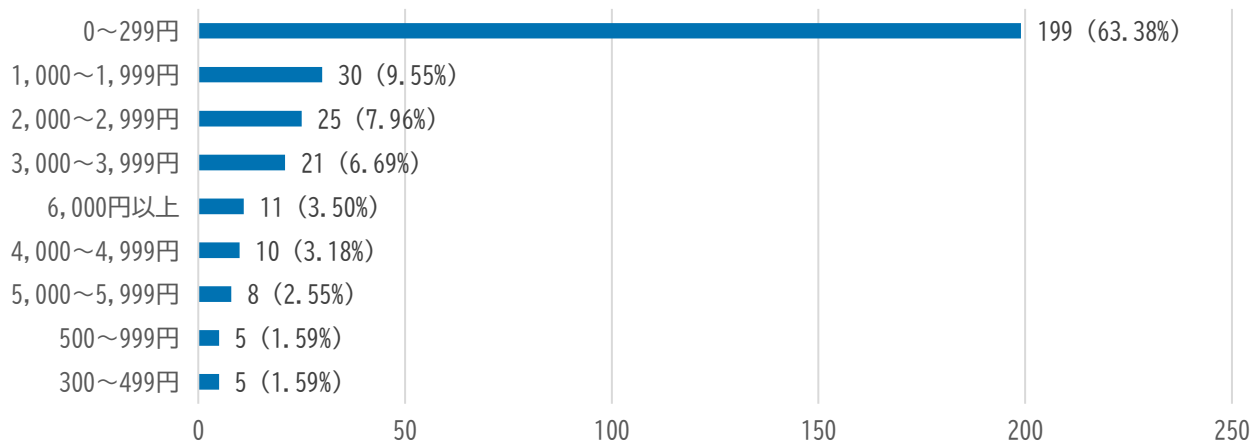
⑮ 催し物の入場者数【SA】 <ジャンル内訳>

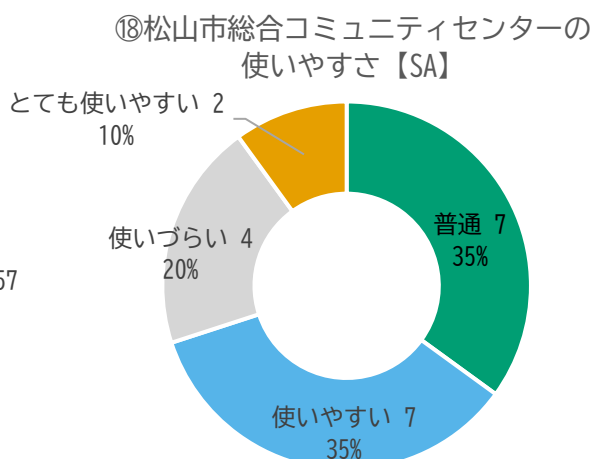
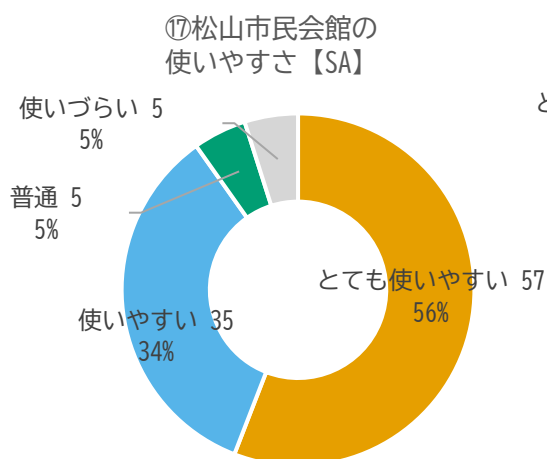


【団体分野×入場者数】

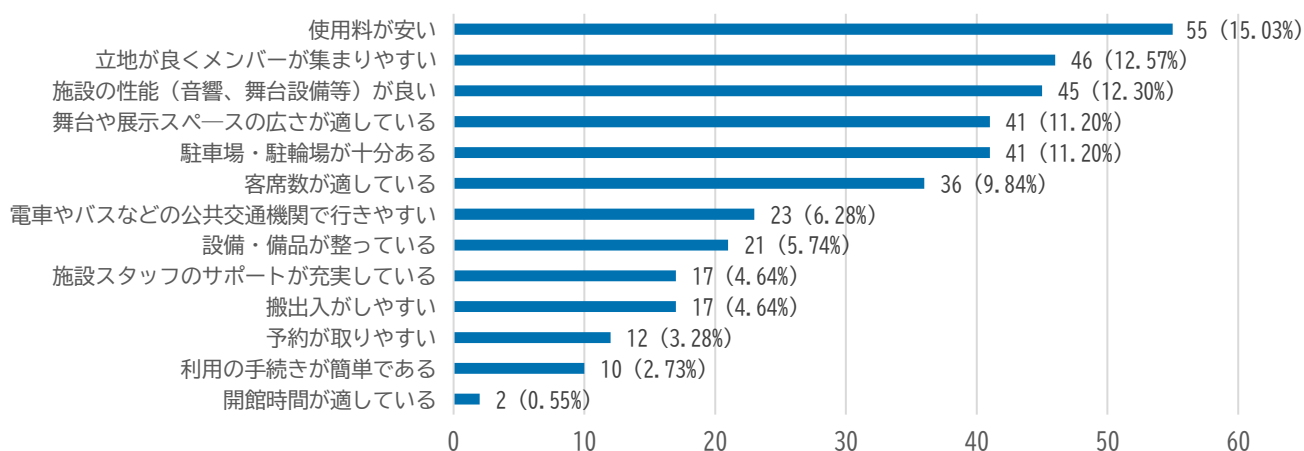
分野別に入場者数規模を見ると、すべての層において「音楽」が中心的な割合を占めており、幅広い集客規模＝需要があることがうかがえる。一方で「舞踊」、「演劇」は小～中規模層、「伝統芸能・民俗芸能」、「美術・工芸」、「生活文化」は比較的小規模層に集中しており、分野ごとに適正な集客規模が異なることが示唆される。

⑯ 催し物の入場料金【SA】





⑲発表などを行う場所について、重視していること【MA】

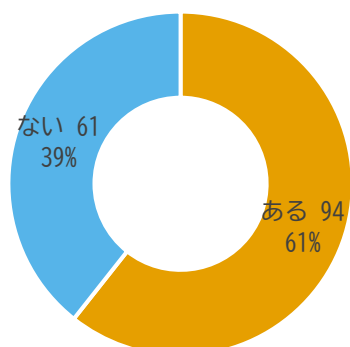


【発表を行う場所について重要視していること】

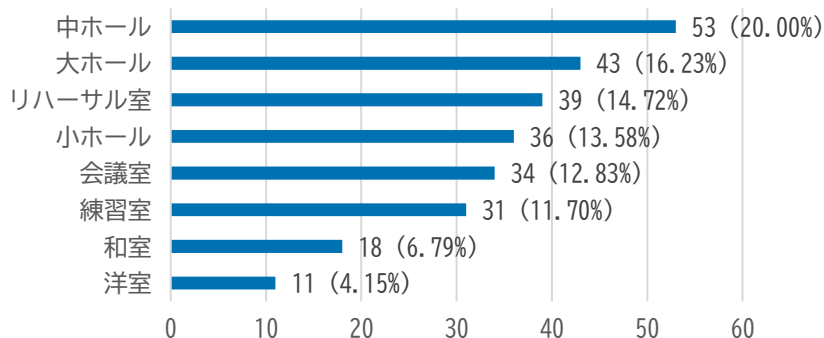
重要視する点として「使用料が安い」「立地が良く集まりやすい」が上位を占めており、経済性やアクセス性といった実用的条件が会場選択に大きく影響していることが分かる。一方で、「施設の性能」や「舞台や展示スペースの広さ」も同程度に重視されており、利便性だけでなく、公演の質を支える環境への関心も高い

(4) 松山市民会館について

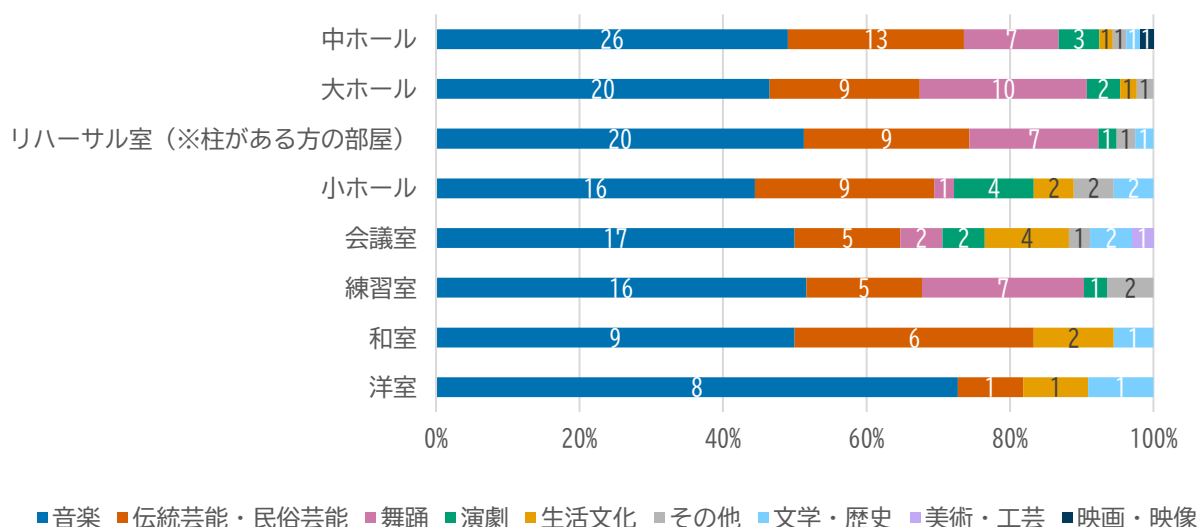
⑳松山市民会館の利用有無【SA】



㉑松山市民会館のどの施設を利用したか【MA】



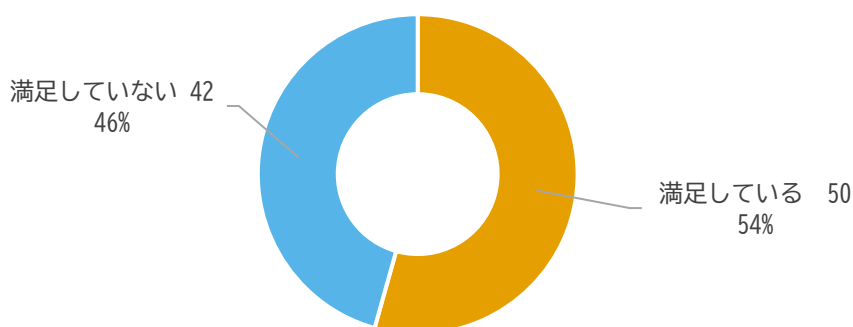
②' 松山市民会館のどの施設を利用したか【MA】 <ジャンル内訳>



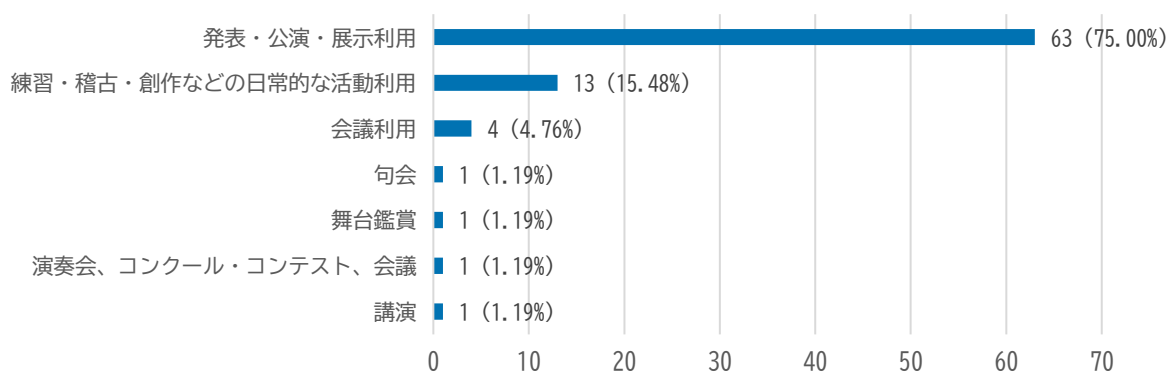
【団体分野×松山市民館の利用諸室】

ジャンル別に見ると、「音楽」は「中ホール」、「大ホール」、「リハーサル室」など幅広い施設で利用されており、発表から練習まで一体的に活用されていることが分かる。「舞踊」や「伝統芸能」もホール利用が中心である一方、「演劇」は「小ホール」や「会議室」など比較的小規模な空間での利用が目立つ。

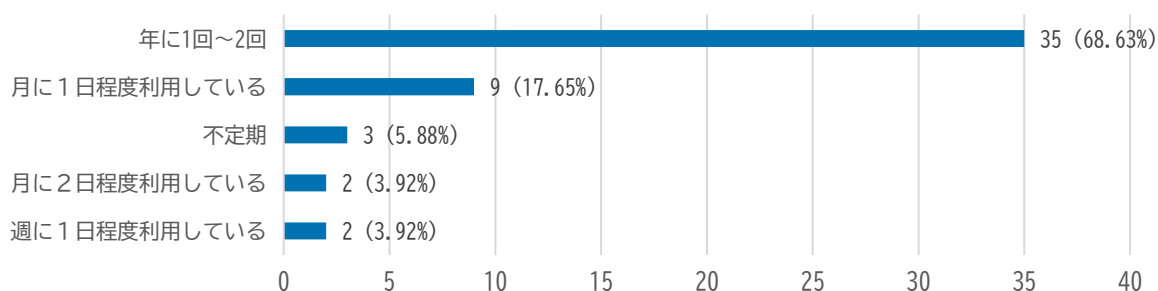
②松山市民会館に満足しているか【SA】



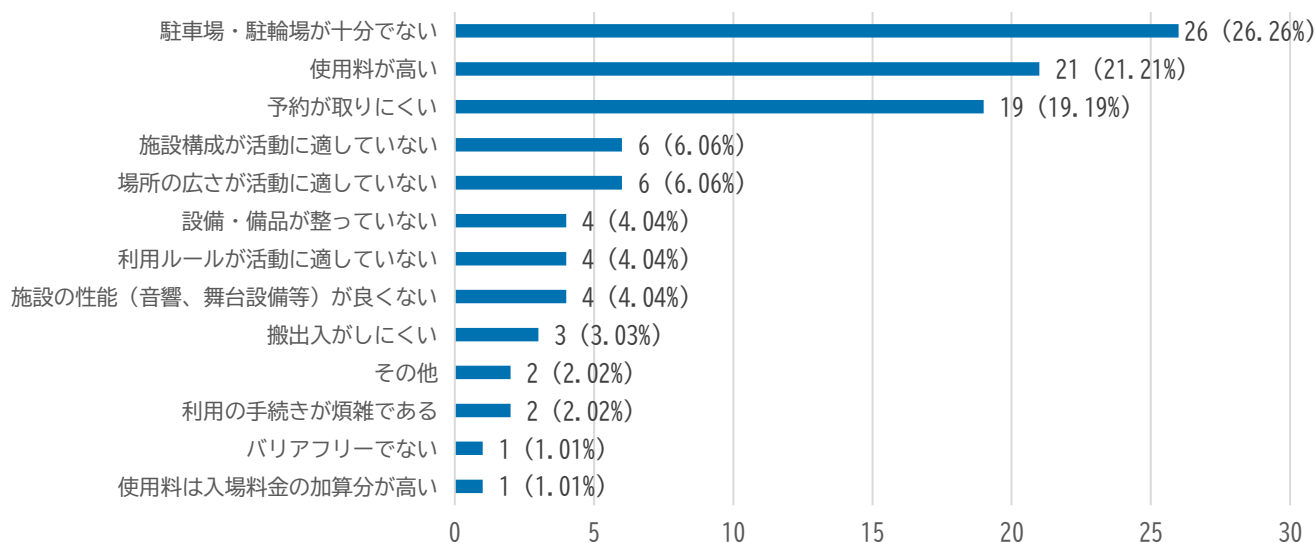
③松山市民会館での活動内容【SA】



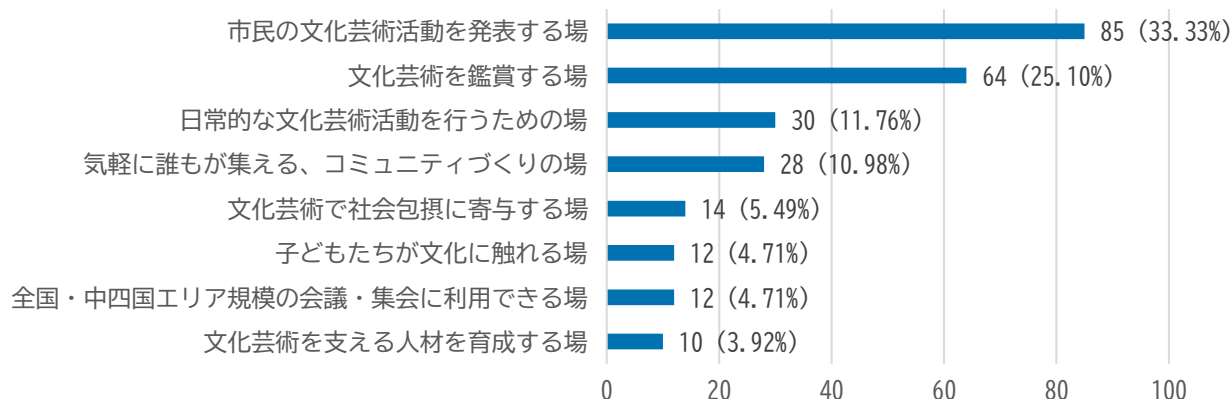
⑭松山市民会館の利用頻度【SA】



⑮松山市民会館に「満足していない」場合の理由【MA】



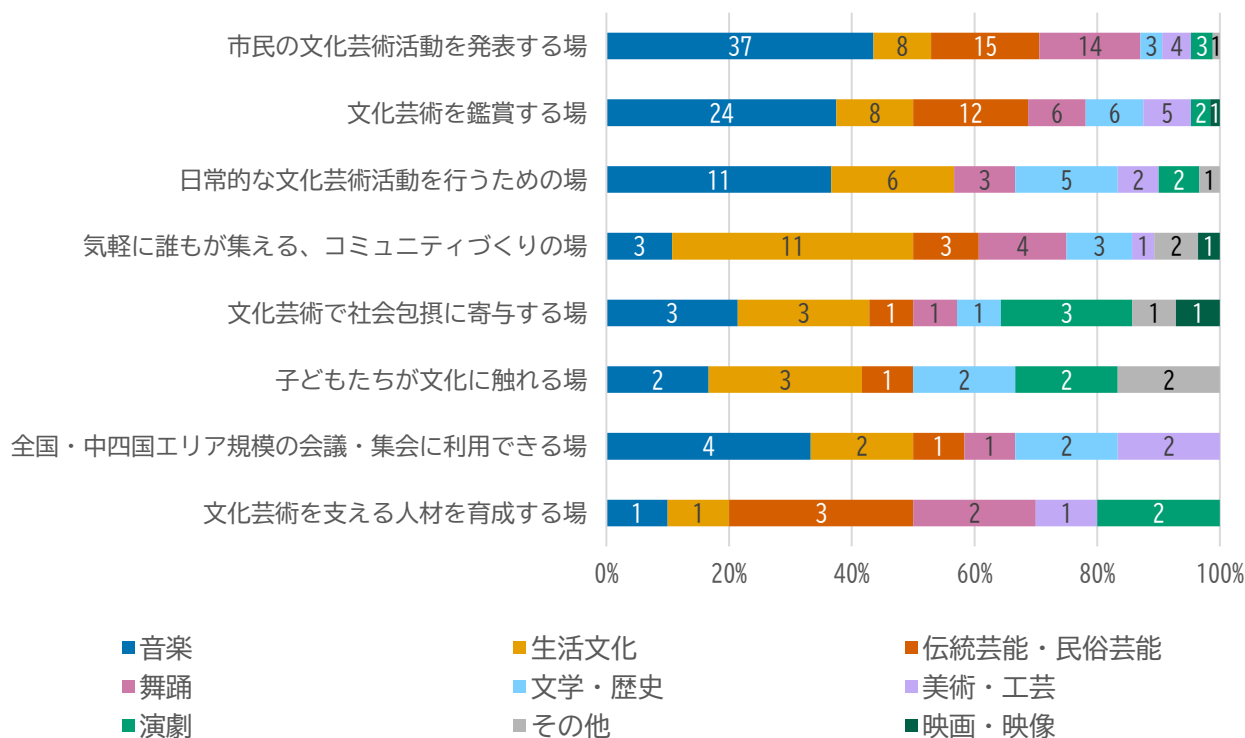
⑯代替施設には、どのような役割が必要か【MA】



【代替施設には、どのような役割が必要か】

代替施設に求める役割として、「市民の文化芸術活動を発表する場」や「文化芸術を鑑賞する場」が半数以上を占めており、従来の市民会館が担ってきた発表・鑑賞機能の役割を引き継ぐことが強く期待されていると分かる。一方で、「日常的な文化芸術活動の場」や「コミュニティづくりの場」も一定の回答があり、非日常の公演機会に加え、日常的に利用できる文化拠点としての役割も求められていることがうかがえる。

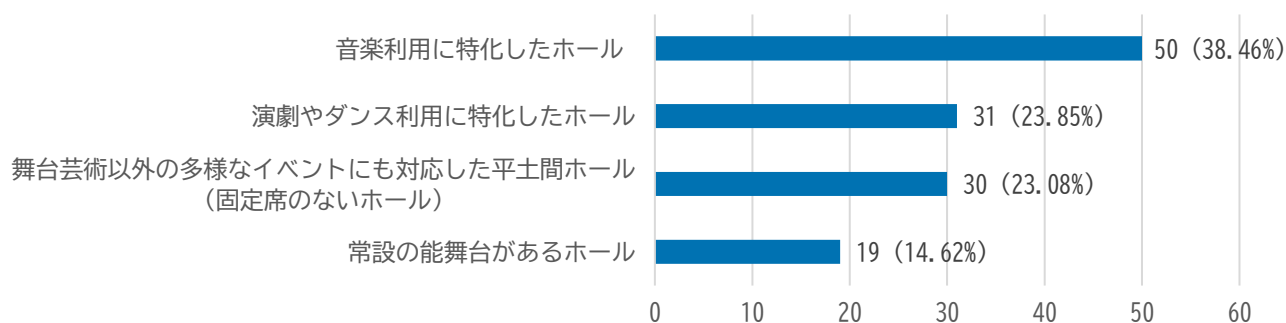
②⑥' 代替施設には、どのような役割が必要か【MA】 <ジャンル内訳>



【団体分野×代替施設に必要な役割】

ジャンル内訳を見ると、特に「音楽」において「発表の場」、「鑑賞の場」へのニーズが高く、幅広い活動段階を支える中核的機能が求められていることが分かる。一方、「生活文化」では「コミュニティづくりの場」への関心が相対的に高く、分野ごとに求める役割に差が見られる。代替施設には一律の機能ではなく、分野特性に応じた多様な役割を組み合わせる提供することが重要であると考えられる。

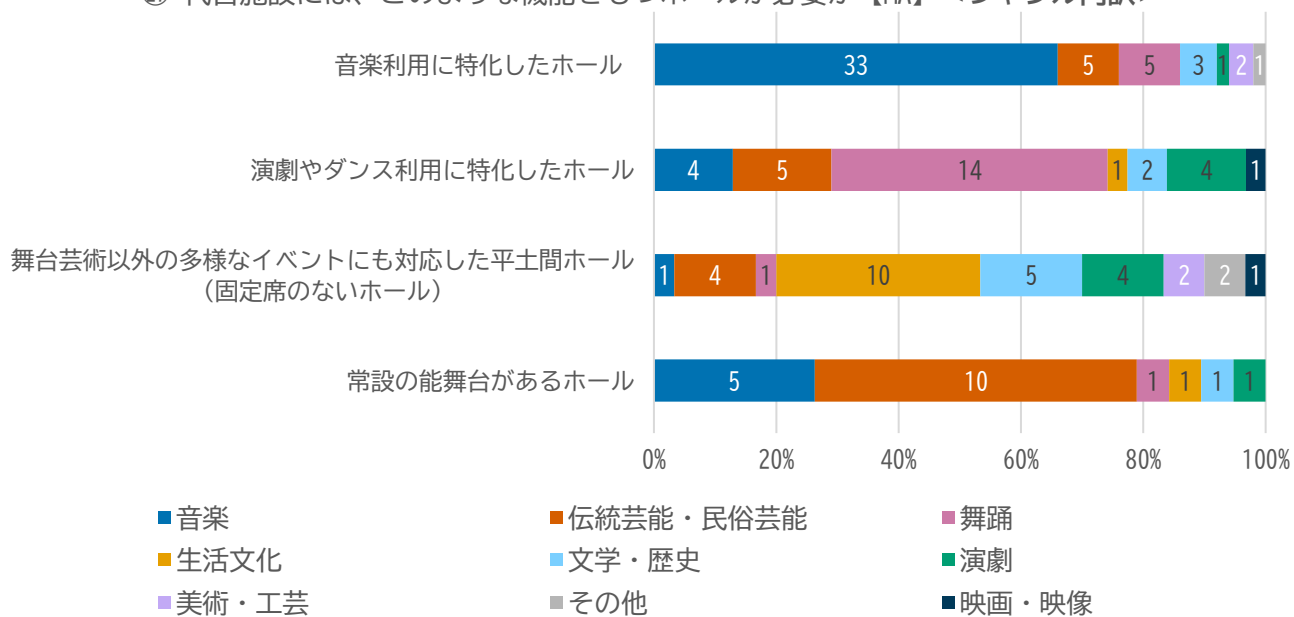
②⑦代替施設には、どのような機能をもつホールが必要か【MA】



【代替施設には、どのような機能を持つホールが必要か】

「音楽」分野の回答者が多いこともあり、「音楽利用に特化したホール」の需要が最も高い結果となっている。その上で、「演劇やダンス」や「平土間ホール」も一定数挙げられており、特定分野に限定されない多様な利用ニーズが存在していると読み取れる。特定分野に対応した専門性を確保しつつ、用途変更が可能な柔軟性を備えたホール機能を併せ持つ施設が求められていると考えられる。

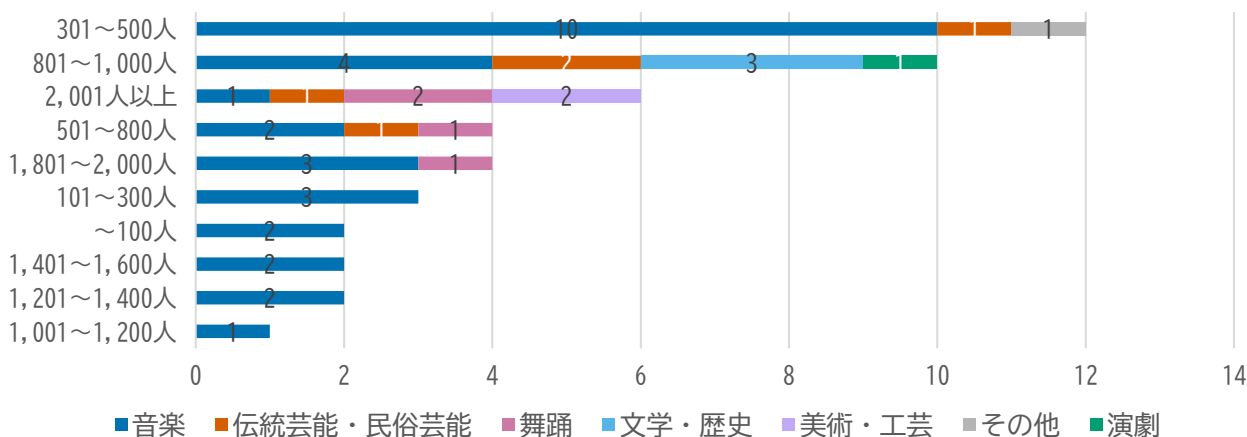
⑳' 代替施設には、どのような機能をもつホールが必要か【MA】 <ジャンル内訳>



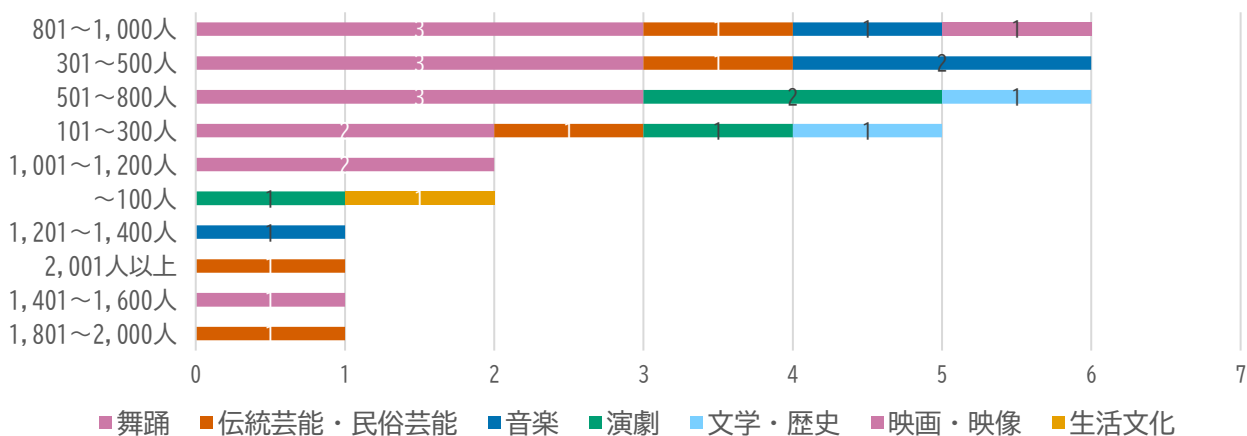
【団体分野×代替施設に必要な機能】

分野の内訳を見ると、分野と求められる機能はおおむね対応関係にあることが分かる。「平土間ホール」は柔軟性が高いことから、「生活文化」や「文学・歴史」を中心に要望が見られる一方、多様な分野にまたがって一定数の需要があることが読み取れる。

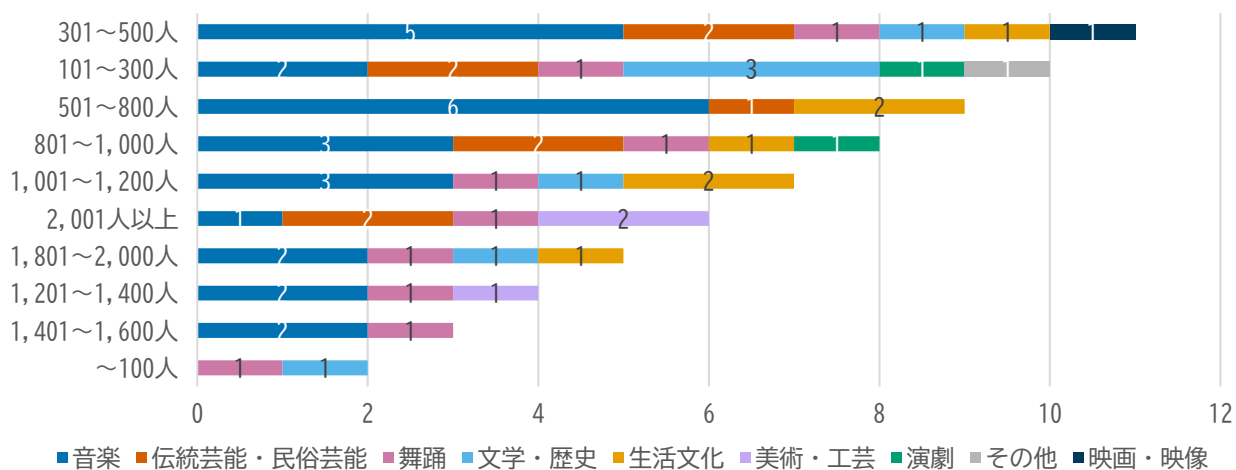
㊸ 「音楽利用に特化したホール」の場合のホール規模【MA】
 <ジャンル内訳>



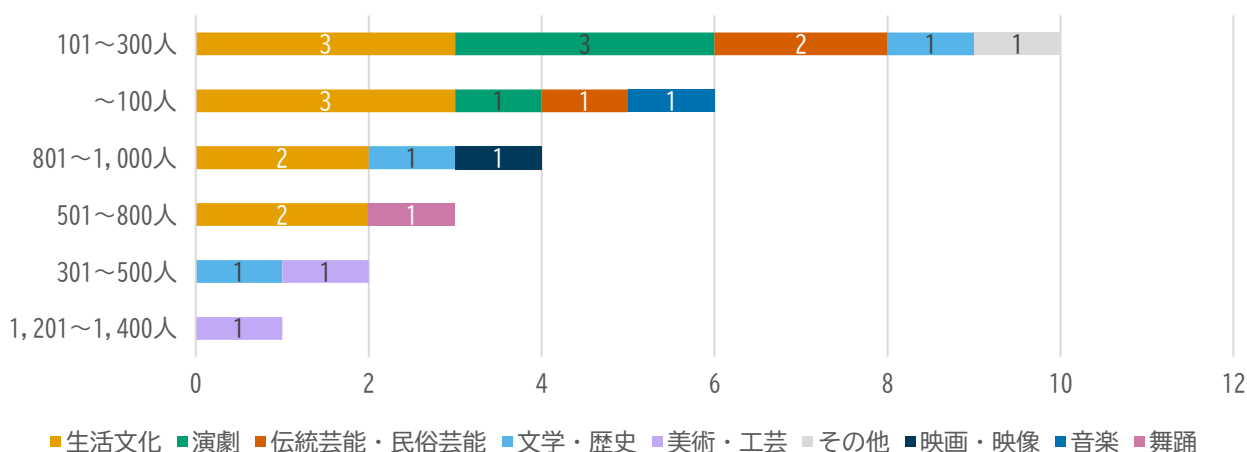
㊹ 「演劇やダンス利用に特化したホール」の場合のホール規模【MA】
 <ジャンル内訳>



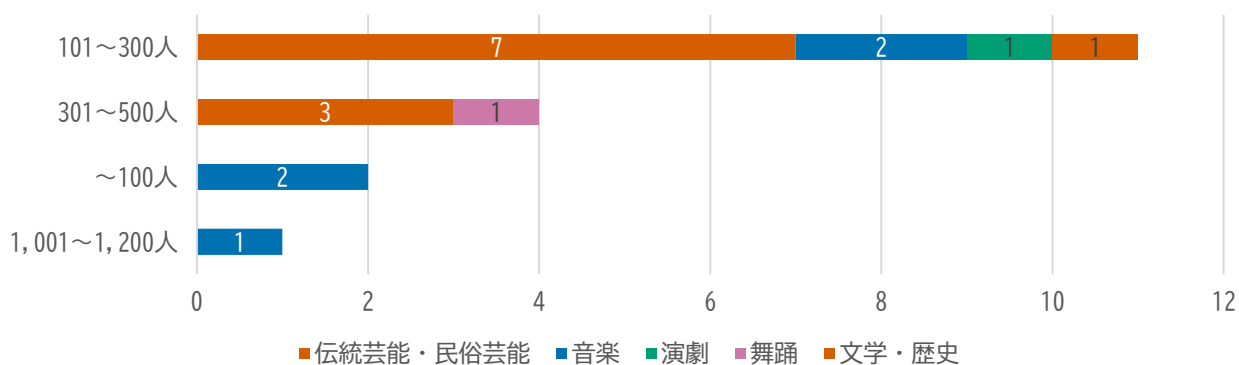
㊺ 「様々な演目に対応した多目的ホール」の場合のホール規模【MA】
 <ジャンル内訳>



③ 「舞台芸術以外の多様なイベントにも対応した平土間ホール」の場合の
ホール規模【MA】 <ジャンル内訳>



④ 「常設の能舞台があるホール」の場合のホール規模【MA】
<ジャンル内訳>



【各機能に特化したホール】

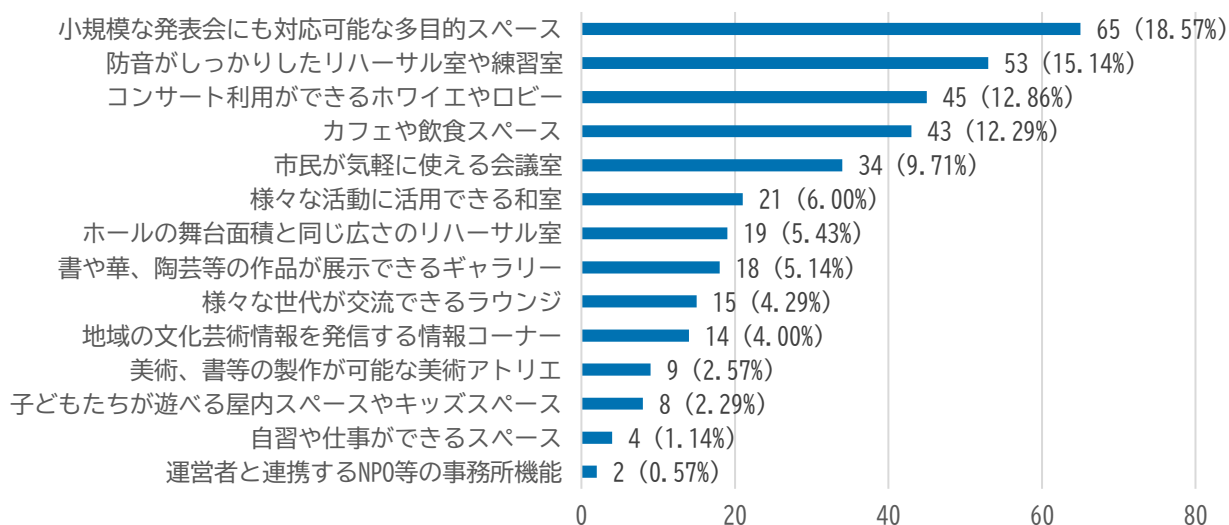
各機能別のホール規模を見ると、分野ごとに求められる規模に違いが見られる。「音楽特化」は301~500人規模を中心としつつ、801~1,000人規模にも一定の需要があり、日常的な発表から一定規模の鑑賞まで幅広く対応可能なキャパシティが求められていることが分かる。

一方、「演劇やダンス特化」、「多目的ホール」は101~1,000人規模まで分布が広がっており、特定の規模に依存せず、多様な活動を受け入れる機能が求められているといえる。

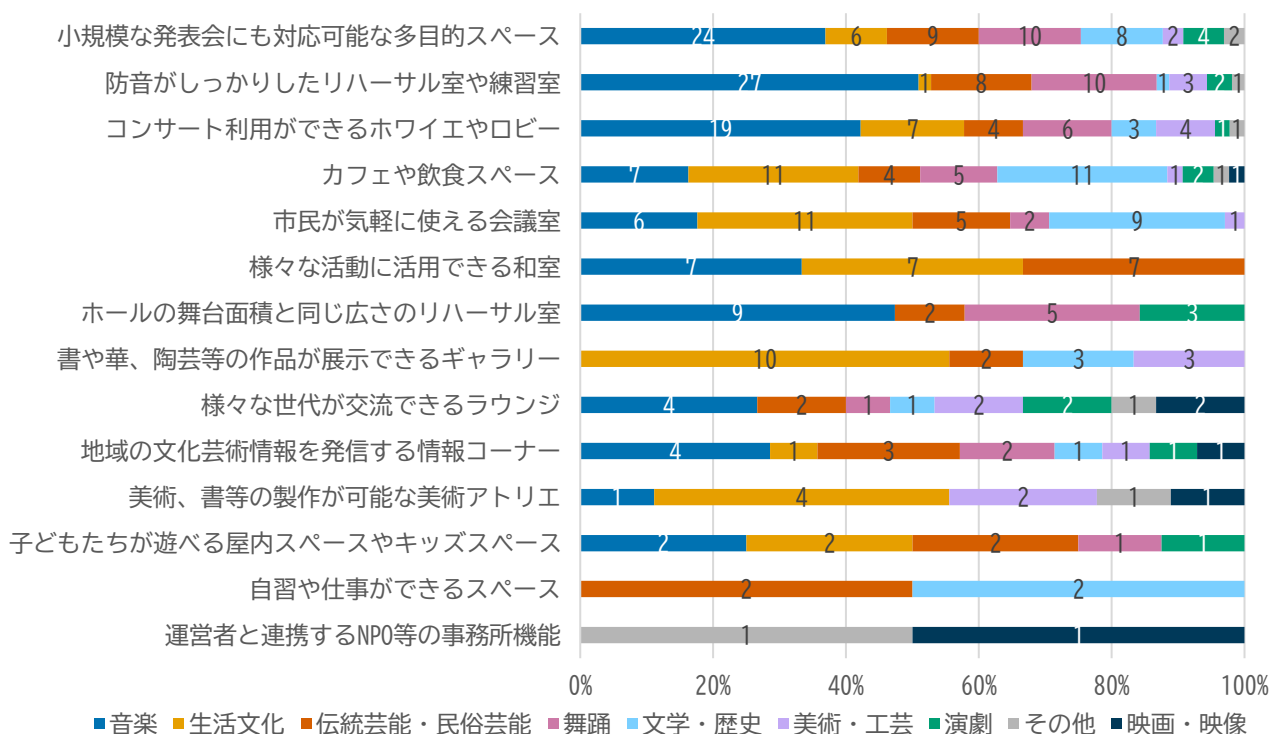
また、「平土間ホール」は分野を横断して選択されており、可変性を活かした多用途の利用が前提となっていると読み取れる。

さらに、「能舞台」は101~300人規模が中心であり、小規模の利用が想定されていると分かる。

③代替施設にはホールのほかにどのような機能が必要か【MA】



③'代替施設にはホールのほかにどのような機能が必要か【MA】 <ジャンル内訳>



【団体分野×代替施設に必要な機能】

必要機能を見ると、「多目的スペース」「防音がしっかりしたりリハーサル室や練習室」など、ホールでは補完しきれない日常的な活動基盤に関するニーズが高いことが分かる。特に音楽分野では練習・リハーサル機能への要望が顕著であり、活動環境の重要性が示されている。一方で、「カフェ」や「交流ラウンジ」、「会議室」なども一定数挙げられており、文化施設に対して滞在や交流を促す場としての機能も求められている。また、「ギャラリー」や「アトリエ」などは分野ごとの特性を反映した要望であり、活動内容に応じた機能の分化が必要であると読み取れる。